

まず新型コロナウイルス感染症拡大の影響が収まらないなかではありましたが、第61回全日本教職員バドミントン選手権大会を開催していただいたことに日本バドミントン協会をはじめ、感染症対策を行いながら運営をしてくださった愛媛県バドミントン協会や、大会に携わってくださったすべての方々に感謝申し上げます。

さて今大会は3年振りの開催ということもあり、我々栃木県教職員チームも今まで以上に自分たちの力をすべて出したいと挑んだ大会でした。毎年大会が開催されるかわからないなかでの練習でモチベーションが下がってしまうこともありましたが、栃木県バドミントン協会の森田会長や館野理事長をはじめたくさんの方々に激励の言葉をいただいたり、高体連の先生方などには国体練習や高校の練習などで練習場所の提供していただいたりと、この他にも多くの方に支えられ大会に向けて準備をしてきました。練習は週に一度メンバー全員で時間を作り2時間程度行い、お互いが指導者として学んできたこと学んでいることを、共有しながら選手としてまた指導者としてもスキルアップを図りながら練習し、大会に挑みました。大会初戦は久しぶりの大きな大会と「勝ちたい」と強く思う気持ちで動きが硬くなってしまう選手もいましたがチームで支え合い、試合を重ねていくごとに緊張もほぐれ、チームとしての完成度も高くなっていき、また、栃木県女子チームの方々の応援やサポートのおかげで最高のパフォーマンスをすることができました。特に前回大会優勝の福岡県との一戦は、第一ダブルスの荒井・寺田組が練習以上の力を発揮しチームに勢いをつけてくれました。その勢いのまま初戦から全員が一試合も落とすことなく無敗で優勝を果たすことができ、喜びを感じています。

この優勝は自分たちの力だけではなく、たくさんの栃木県バドミントン関係者の支えがあったからだと感じています。

これから団体優勝チームとして追われる立場になりますが、常にチャレンジャーという気持ちで練習に励み連覇を目指していきます。また、教員として自分たちの競技力を生徒に還元し、指導者としても栃木県のバドミントン界を盛り上げ、栃木県から世界で活躍する人材育成にも力を入れていきたい。まだまだ社会人として、また教員としても未熟なことが多く、多くの方にご迷惑をお掛けしてしまっていますが、一つ一つの学びを大切に学び続け、「感謝」の気持ちを忘れずに栃木県バドミントン協会をはじめお世話になっている方々、生徒に恩返しをしていきます。皆さんもこれからの栃木県のバドミントンにご期待ください !!

〈栃木県教職員 代表：菅原 健太〉